

中国四国教育学会第 66 回大会報告

中国四国教育学会事務局

〒739-8524 東広島市鏡山 1-1-1

広島大学大学院教育学研究科教育学講座内

cssse@hiroshima-u.ac.jp

中国四国教育学会大会は、広島地区、中国地区（広島を除く）、四国地区のローテーションで開催されております。第 66 回大会は、平成 26 年 11 月 15、16 日の 2 日間、広島大学大学院教育学研究科を会場に、同研究科教科教育学・及び日本語教育学分野の会員からなる準備委員会の多大な尽力により開催されました。自由発表部会は例年並みの件数でしたが、シンポジウムは「グローバル化と学校教育」というテーマで、国の政策の方向に続いて、広島市内の小中学校の優れた教育実践と広島大学の取組について提案があり、グローバル化と国際化について考えることができたいへん有意義でした。快適な会場を提供くださいました広島大学大学院宮谷真人研究科長、並びに立派な大会を開催して下さった実行委員長の小原友行先生、副委員長の松見法男先生をはじめ多数の委員の先生方には厚くお礼を申し上げます。

さて、私はこの 4 月から会長に就任いたしました。他の学会と比べた中国四国教育学会のユニークな特徴は、3 つほどあると思います。第 1 は、教育学に加えて教科教育学と日本語教育学の領域も包括した総合的な学会であり、地域学会としては最大規模の学会であることです。第 2 は、大学院生が最初の学会発表を行う「デビューの場」そして論文掲載の場として機能し、研究者養成に大きな役割を果たしていることです。第 3 は、中国四国地方の大学等の研究者の情報交換、親睦の場として機能していることです。

このような特徴がますます発揮するよう、3 年間、運営に尽くしていきたいと思っておりますので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。（会長・山崎博敏）

○自由研究発表・公開シンポジウム・ラウンドテーブル

自由研究発表は、計 25 部会で 126 件の発表が行われました。部会名は、次の通りです。

第 1 日 11 月 15 日 (土)	第 2 日 11 月 16 日 (日)
道徳教育 部会	教育の思想 部会
教育の歴史 部会	高等教育 部会
生徒指導 部会	カリキュラム 部会
授業研究 部会	教育行政 部会
地域社会と教育 部会	幼児教育Ⅲ 部会
学校経営 部会	教員養成Ⅱ 部会
幼児教育Ⅰ 部会	教師の力量形成Ⅱ 部会
幼児教育Ⅱ 部会	国語教育Ⅱ 部会
教員養成Ⅰ 部会	音楽教育Ⅱ 部会
教師の力量形成Ⅰ 部会	音楽教育Ⅲ 部会
国語教育Ⅰ 部会	教育と言語 部会
音楽教育Ⅰ 部会	ケアと教育 部会
リテラシーと教育 部会	

大会 1 日目の午後に設けられた今大会の公開シンポジウムでは、「グローバル化と学校教育」と題し、グローバル化社会における学校教育の役割について考えていく取組がなされました。

コーディネーターの影山和也氏（広島大学）から趣旨説明がなされた後、大野彰子氏（国立教育政策研究所）から「グローバル化の全体像、現状、求められる人材像と学校教育への期待」と題する提案がなさ

れました。続いてシンポジスト4名から問題提起がなされました。まず、安宅弘展氏（広島女学院中学高等学校）からは「外への国際化の取組」、そして木村幸子氏（広島市立白島小学校）からは「内なる国際化の取組」、さらに小川正人氏（環太平洋大学）からは「海外のグローバル教師教育の動向」、最後に山元隆春氏（広島大学）からは「グローバル教師教育に向けた広島大学の取組」と題する提案がなされました。

大会2日目の午後には、2件のラウンドテーブルが開催されました。1件目は、「各国の教育政策・施策における国際学力調査の影響」と題され、司会者の渡邊あや氏（国立教育政策研究所）から趣旨説明がなされた後、12名から問題提起がなされました。発表者とテーマは次のとおりです。二宮皓氏（比治山大学）「研究のねらい」、田崎徳友氏（九州女子大学）「フランスの事例」、金龍哲氏（神奈川県立保健福祉大学）「上海の事例」、大野亜由未氏（元広島市立大学）「ポーランドの事例」、下村智子氏（三重大学）「カナダの事例」、金井裕美子氏（広島大学）「ベルギーの事例」、卜部匡司氏（広島市立大学）「ドイツ、日本の事例」、佐藤仁氏（福岡大学）「分析の枠組」、奥田久春氏（広島大学）「オーストラリア、サモアの事例」、潘建秀氏（大阪大学）「香港の事例」、石田憲一氏（長崎純心大学）「シンガポールの事例」、グリーク・リークレ氏（日欧産業協力センター）「オランダの事例」。

2件目は、「教職課程担当教員による大学教科書（テキスト）の執筆と編集—私たちの経験と解釈—」と題され、司会者の佐々木司氏（山口大学）から趣旨説明がなされた後、佐々木氏を含む4名から提案がなされました。発表者とテーマは次のとおりです。佐々木司氏「教育と研究という擬似二元論の向こう側」、三時眞貴子氏（広島大学）「教職科目の教科書執筆と課題」、猫田和明氏（山口大学）「英語科教育法における教科書の位置づけを考える」、三山緑氏（岐阜聖徳学園大学）「活用面から見た教職科目テキストの課題」。

○理事会・総会報告

理事会は、大会前日の11月14日（金）18時から広島大学教育学研究科第1会議室において開催され、役員12名と事務局幹事3名が出席し、総会に提出する事項についての審議等が行われました。

総会は、大会第1日目の11月15日（土）に、広島大学教育学研究科L205講義室で開催されました。まず事務局より事業・会議報告、編集委員会より学会誌編集に関する事業報告がなされました。続いて、2013年度決算・監査報告、2014年度予算案・中間決算報告、次年度大会校、副会長の改選についての審議がなされ、全て原案通りに承認されました。

中国四国教育学会・総会

1. 開会の辞	事務局長：古賀一博
2. 会長挨拶	会長：山崎博敏
3. 大会校挨拶	大会実行委員長：小原友行
4. 議長団選出	中村直人・松見法男
5. 報告事項	
(1) 事業・会議報告	事務局長：古賀一博
(2) 編集委員会報告	編集委員長：山田浩之
6. 審議事項	
(1) 2013年度決算／会計監査報告	事務局幹事：丸岡愛美 監査：卜部匡司・吉田香奈
(2) 『教育学研究紀要』掲載費執筆者負担の軽減について	事務局幹事：丸岡愛美
(3) 2014年度予算案	事務局幹事：丸岡愛美
(4) 2015年度の予算方針案について	会長：山崎博敏
(5) 副会長の改選について	会長：山崎博敏
(6) 第67回大会開催について	会長：山崎博敏
7. 議長団解任	事務局長：古賀一博
8. 閉会の辞	事務局長：古賀一博

○次年度大会のお知らせ

次年度の第67回大会は、平成27年10月31日（土）・11月1日（日）、岡山大学を会場として開催される予定です。詳細はおっしてお知らせいたします。会員の皆様のご参加をお待ちしております。